

平成 23 年度事業報告

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

I 東日本大震災復興支援

II 囲碁普及事業（公益目的事業1）

- 1 棋戦事業
- 2 専門棋士育成事業
- 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
- 4 囲碁対局環境の提供
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 八重洲囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス（内部統制）

概 況

日本棋院は、平成 23 年 4 月 1 日に公益財団法人へ移行した。平成 23 年度事業計画活動基本方針である、青少年への囲碁普及活動、全国囲碁組織のネットワーク構築、棋道研鑽強化の三点に重点をおき、公益財団法人として期待される活動を積極的に展開した。

また、東日本大震災で被災された方々の支援活動にも注力した。

I 東日本大震災復興支援

1、東日本大震災義援金募集活動

被災された地域復興支援のため、4 月 11 日から 9 月 15 日までの期間、ホームページ、雑誌、週刊碁等の媒体で義援金募集を実施。

義援金 5,336,748 円 （日本赤十字社へ）2012 年 3 月末現在

2、東日本大震災復興支援イベントの開催

(1) 復興支援イベント「こころの碁」

2011 年 5 月 8 日（日）東京本院、関西総本部、中部総本部の三拠点で同時開催。

参加者計 543 名（東京本院 317 名、関西総本部 68 名、中部総本部 158 名）

参加棋士計 148 名（東京本院 85 名、関西総本部 27 名、中部総本部 36 名）

691 名がイベントに参加した。

義援金 東京本院・関西総本部 2,032,768 円（日本赤十字社へ）

中部総本部 840,952 円（愛知県を通して寄付）

(2) 年末チャリティーイベント「こころの碁」

2011 年 12 月 11 日（日）東京本院で開催。

参加者数 192 名、参加棋士 51 名 総数 243 名が参加。

義援金 963,524 円（日本赤十字社へ）

3、東日本大震災支部復興支援タケフ基金の創設

東日本大震災により被災された支部及び会員の方々への支援と被災された囲碁ファンの皆様に元気になっていただくイベントの開催を目的とし基金を創設した。

海峰棋院（台湾）、韓国棋院、中華民国囲碁協会、中国棋院、韓国棋院専門棋士会、日本棋院棋士会からの義援金及び趣旨にご賛同いただいた支部、全国の囲碁ファンの方々より合計 27,770,410 円の寄付が寄せられた。本年度は、東北 4 県での「こころの碁」イベントを開催した。

(1) 宮城県：「東日本復興祈念！仙台七夕囲碁まつり・こころの碁」

2011 年 8 月 6 日～7 日

後援：仙台市、仙台市商工会議所、河北新報社

協力：宮城県囲碁連盟、今、子供たちと碁を！宮城の会等

仙台市のハーネル仙台で公開対局、100 面打ち指導碁等実施

被災地訪問 アスト長町仮設住宅、多賀城市・多賀城支部、名取市・名取支部

(2) 岩手県：東日本復興祈念囲碁イベント「こころの碁・遠野物語」

2011 年 9 月 23 日～24 日

後援：遠野市、岩手日報社、IBC 岩手放送

協力：岩手県本部、遠野支部、盛岡支部

遠野市「あえりあ遠野」で公開激励対局 被災地7支部選抜者VSプロ棋士の公開
対局及び100面打ち指導碁

被災地訪問 釜石市、陸中山田市、大船渡市、陸前高田市

(3) 青森県：「青森こころの碁・イカのまち八戸囲碁まつり～暮らしに活力を」

11月19日

後援：青森県、八戸市、デーリー東北新聞社、八戸テレビ放送

協力：青森県本部、八戸支部

「デーリー東北新聞社6階ホール」で公開対局 及び100面打ち指導碁

(4) 福島県：「こころの碁・がんばろう ふくしま」

2012年3月24日

後援：福島県、福島市、福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、
福島テレビ、テレビユー福島、福島中央テレビ、福島放送

協力：日本棋院福島県支部連合会、福島県囲碁連盟

「パルセイイざか（福島市飯坂温泉観光会館）」で公開対局及び100面打ち指導碁

Ⅱ 囲碁普及事業(公益目的事業1)

1 棋戦事業

囲碁は二人で創る調和の芸術であり真理を追究する一種の哲学ともいえる。

棋戦を通じて棋士はその創造的思索の頂点を極めるべく、日頃の精進の成果を盤上で競い
合い、新たに囲碁を創造する。棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史が生まれる。
その模様はテレビやインターネットで中継し、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の
振興に努めた。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、専門棋士と地元の囲碁愛好家
や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会や指導碁等、ファンイベン
トを同時に開催した。

平成23年度に行われた棋戦の結果は以下の通り。

(1) 棋聖戦 (第36期 棋聖決定七番勝負 読売新聞社)

張 栩棋聖 — 高尾 紳路九段

(張 栩棋聖が4勝3敗で棋聖位を防衛)

(2) 名人戦 (第36期 名人決定七番勝負 朝日新聞社)

井山 裕太名人 — 山下 道吾本因坊

(山下 敬吾本因坊が4勝2敗で名人位を奪取)

(3) 本因坊戦 (第66期 本因坊決定七番勝負 毎日新聞社)

山下 道吾本因坊 — 羽根 直樹九段

(山下 道吾本因坊が4勝3敗で本因坊位を防衛)

(4) 天元戦 (第37期 天元決定五番勝負 新聞三社連合)

結城 聡天元 — 井山 裕太十段

(井山 裕太十段が3勝0敗で天元位を奪取)

(5) 王座戦 (第59期 王座決定五番勝負 日本経済新聞社)

- 張 栩王座 — 羽根 直樹碁聖
(張 栩王座が3勝0敗で王座位を防衛)
- (6) 碁聖戦 (第36期 碁聖決定五番勝負 新聞囲碁連盟)
坂井 秀至碁聖 — 羽根 直樹九段
(羽根 直樹九段が3勝2敗で碁聖位を奪取)
- (7) 十段戦 (第49期 産経新聞社)
張 栩十段 — 井山 裕太名人
(井山 裕太名人が3勝2敗で十段位を奪取)
- (8) 竜星戦 (第20期 囲碁将棋チャンネル)
井山 裕太名人 — 結城 聡九段
(井山 裕太名人が勝ち優勝)
- (9) NECカップ (第31期 NEC)
二十五世本因坊治勲 — 高尾 紳路九段
(高尾 紳路九段が勝ち優勝)
- (10) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第59回 NHK)
羽根 直樹碁聖 — 結城 聡九段
(結城 聡九段が勝ち優勝)
- (11) テレビ囲碁アジア選手権 (第23回 NHK・KBS・CCTV)
(孔 傑九段(中国)が2年連続優勝)
- (12) 新人王戦 (第36期 しんぶん赤旗)
村川 大介七段 — 安斎 伸彰六段
(村川 大介七段が2勝0敗で新人王を獲得)
- (13) 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦 (第18期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
山下 道吾桐山杯者 — 井山 裕太名人
(井山 裕太名人が勝ち2度目の優勝)
- (14) 阿含桐山杯日中決戦 (第13期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
朴 文堯 九段 — 井山 裕太 九段
(朴 文堯九段が勝ち優勝)
- (15) 女流本因坊戦 (第30期 共同通信社)
謝 依旻女流本因坊 — 向井 千瑛四段
(謝 依旻女流本因坊が3勝1敗で女流本因坊位を防衛)
- (16) 女流名人戦 (第23期 産経新聞社)
謝 依旻女流名人 — 向井 千瑛四段
(謝 依旻女流名人が2勝1敗で女流名人位を防衛4連覇達成)
- (17) 女流棋聖戦 (第15期 NTTドコモ)
謝 依旻女流棋聖 — 青木喜久代八段
(青木喜久代八段が2勝1敗で女流棋聖位を奪取)
- (18) 広島アルミ若鯉戦 (第6回 広島アルミニウム)
内田 修平七段 — 志田 達哉四段

(内田修平七段が勝ち優勝)

(19) 王冠戦 (第52期 中日新聞社)

山城 宏王冠 — 羽根 直樹碁聖

(羽根 直樹碁聖が勝ち王冠位を奪取)

(20) マスターズカップ (第1回 エステー・フマキラー)

二十五世本因坊治勲 — 小林 光一九段

(二十五世本因坊治勲が勝ち第1回マスターズ杯者に)

(21) おかげ杯 (第2回 濱田総業)

安斎 伸彰六段 — 志田 達哉四段

(安斎 伸彰六段が勝ち優勝)

(22) ネット囲碁オープン (第7回 大和証券グループ)

井山 裕太天元 — 25 世本因坊治勲

(井山 裕太天元が勝ち連覇)

(25) 海外棋戦

L G 杯・三星火災杯・B C カード杯・農心杯 (韓国)、春蘭杯・黄竜士双登杯 (中国)、等の海外棋戦に参戦する。

2 専門棋士育成事業

国際的にも通用する強い専門棋士の養成を最重要課題と受けとめ、院生育成と及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施した。

(1) 院生強化育成

① 院生研修

専門棋士を目指す約 100 名の院生を A～E クラスに分け毎週土・日曜日に研修を実施した。研修日には師範をおき礼儀作法から指導を行った。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、上位者は棋士採用試験への参加や若手棋士との合宿に参加させた。

② 院生研修検討会

院生研修日に、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による解説検討会を実施し指導した。

③ 院生ネット指導

毎週火・水・金 午後 8 時より 9 時 30 分に、ネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を実施した。棋譜については一般公開した。

(2) 若手棋士育成

① 若手棋士強化合宿 (於：中国) 年 2 回

若手棋士及び院生成績上位者を対象として、中国棋院の協力を得て、春季・夏季の 2 回、棋道研鑽の場として中国での強化合宿を実施した。

② 若手棋士育成イベントの実施 (週刊碁主催 中野杯)

20 歳以下の若手棋士および院生らによる棋戦。第 8 回となる本年度は 32 名が参加。5 月 16、17 日に予選を行い、本戦から決勝戦は 7 月 18、19 日に実施した。

③中国遠征（中野杯上位者を派遣）

中野杯のベスト8と推薦者2名が11月23～25日まで、1日2局、3日間で一人6局、将来有望な中国の若手棋士らと対局した。日中決戦は北京で開催された。

④海外棋戦への挑戦（BCカード杯、LG杯、三星火災杯）

近年、海外棋戦は予選からオープンになり、誰でも、参加できるようになった。特に若手棋士の挑戦を促し、韓国、中国の棋士との対局を通じて国際感覚を身につける経験を積み重ねていく。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、また、すべての囲碁愛好者の棋力向上のため、専門棋士による指導のほか、普及指導員、学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開した。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動を地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開した。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

①入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により80校に専門棋士80名を派遣し指導を行った。また、現地での継続的な開催ができるよう支援した。

②ジュニア教室の開催

東京本院、八重洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催した。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し今年度も新規に埼玉県春日部市・さいたま市、東京都東久留米市、新潟県聖籠町、沖縄県沖縄市・名護市で学校囲碁普及を実施した。

現在行政囲碁事業を行っている自治体は以下のとおり。

秋田県：大仙市、秋田市、能代市、大館市、横手市、東成瀬村、湯沢市

東京都：文京区、渋谷区、千代田区、中央区、品川区、江東区、江戸川区、目黒区、世田谷区、大田区、杉並区、足立区、多摩市、三鷹市、東久留米市

埼玉県：北本市、幸手市、朝霞市、春日部市、川口市、上尾市、行田市、さいたま市

神奈川県：平塚市、横須賀市、川崎市

沖縄県：那覇市、浦添市、沖縄市、名護市、糸満市

福岡県：福岡市、久留米市、柳川市

島根県：出雲市、益田市、太田市

茨城県：取手市、つくば市

千葉県：船橋市、習志野市

新潟県：長岡市、聖籠町、新潟市

群馬県：太田市、伊勢崎市

そのほか、山梨県・北杜市、長野県・大町市、静岡県・静岡市、京都府・綾部市、青森県・青森市、岩手県・奥州市、山形県・山形市、栃木県・足利市、三重県・四日

市市、三重県・志摩市、広島県・尾道市、鹿児島県・奄美市で行っている。

＜主な行政囲碁事業の取組み＞

【秋田県大仙市】（行政囲碁事業モデル地区）

平成 18 年から日本棋院と事業協定を結び、当初市内小学校 7 校からスタート。本年度は 16 校が囲碁を採用し、放課後やクラブ活動の時間に囲碁教室を開催した。囲碁を学ぶ 179 人の小学生を指導するのは地域のボランティア 49 人で、市教育委員会の推薦を得て、日本棋院が認定する学校指導員の資格を得ている。

現在、大仙市における囲碁事業は、学校囲碁教室、月末土日の「大仙囲碁道場」、毎週金曜日の「学びい囲碁サロン」を 3 本柱とし、市内の子どもが交流できる機会を設けている。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 38 校のうち、31 校が囲碁を採用した。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となる。また、6 月には、「品川区ジュニア囲碁フェスタ 2011」を開催し、約 500 名が参加した。

【埼玉県北本市】

北本ジュニア囲碁まつりを開催。地域の団体グループや日本棋院等が協力し、囲碁まつり実行委員会を発足。市内の小中学校では囲碁体験教室、総合学習時間などで囲碁を採り入れ、指導者講習では独自のマイスター研修を行った。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、財団法人 JKA の青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国 17 箇所で開催し、のべ 415 名が参加した。

(4) 囲碁少年少女育英資金活用による事業

全ての日本の子供たちに“囲碁の素晴らしさ”を伝える活動として、囲碁少年少女育英資金を有効活用し、囲碁の才能育成のための奨学金事業、学校教育への導入の際の専門棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援等を実施した。

(5) 囲碁と脳に関する研究と大学での囲碁授業の展開

①東北大学加齢医学研究所（川島隆太教授）と「囲碁と脳に関する研究」を継続

東北大学と日本棋院は平成 17 年度より「囲碁と脳に関する研究」を行っており、平成 23 年度は、都内の公立小学校 1 校で囲碁を知らない小学生を対象に、日本棋院が専門棋士を派遣して囲碁入門講座を行い、東北大学の指導を得て、子どもの認知能力、心理面の変化、親のストレス等を調査した。東北大学より、囲碁は児童の認知発達に良い影響があるとの解析結果を得た。今回の研究結果は、普及活動の側面支援に有効活用する。

② 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年 10 月より、東京大学教養学部と連携して 1～2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設した。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることが目的で、平成 23 年度も日本棋院は講師として棋士を派遣するなど、全面的に協力した。

③ 他4大学において囲碁授業を開始

平成22年4月より、早稲田大学、慶應大学で開講された囲碁授業は平成23年度も継続され、日本棋院は講師として専門棋士を派遣した。また、青山学院大学と埼玉大学教育学部にも囲碁授業の開講に向けて働きかけを行ってきた結果、平成24年4月（埼玉大学は5月）より、両大学で囲碁授業の開講を実現した。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成17年に創設した。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用している。平成23年度も、引き続き44社よりご支援を頂いた。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超えて生涯楽しめるものとして、地域社会でのコミュニケーションの手段として囲碁が取り入れられるよう積極的に活動した。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。専門棋士による講座・解説を実施した。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する専門棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めた。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を活かし、全国の囲碁ファンが気軽に専門棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で指導碁を実施した。

(4) 専門棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、専門棋士の派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行った。棋士派遣は国内で約850件実施した。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び専門棋士を派遣し支援する。全国115箇所で開催。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

公益法人に移行後、より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、新たな会員種別を新設し個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めた。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めた。そのほか支部代表者懇談会を全国8箇所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行った。

第32回普及功労賞 木村大三郎（香川県本部 本部長）

平山重松（神奈川県支部連合会 会長）

蛭名將輝（青森県本部 本部長）

第30回普及活動賞 全国で57名を表彰

平成23年度優秀支部表彰 会員数十傑 一位 三重支部（三重県）309名

会員増十傑 一位 三重支部（三重県）29名

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めた。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努めている。

(2) 専門棋士の海外派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、専門棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めた。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者の日」、「有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供した。のべ18,382名が利用。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上で手軽に対局を楽しめる環境を提供した。また、AndroidOS向けのアプリも提供し、プラットフォームの拡大を図った。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用された。

(4) 外国囲碁センターの支援

外国囲碁センターを現地の囲碁普及団体に貸与し、現地の囲碁普及活動を支援した。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっている。

囲碁はハンディキャップが付与されるので、棋力の差がある者同士の対局でも勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施した。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、2842名が認定大会に参加した。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施した。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行った。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した約 700 の支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行った。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

東日本大震災の影響が心配されましたが、高校生以下を対象とした 3 つの全国大会及び地区大会が例年に近い規模で開催されたほか、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行った。

(1) 第 32 回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手の全国大会を 8 月 2 日～3 日の 2 日間、東京の日本棋院で開催。地方大会は複数会場開催を呼びかけ、4,727 名が参加（小学生：3,385 名・中学生 1,342 名）し、入門者・初級者大会も実施された。全国大会は、小学生 101 人、中学生 102 人が参加し、大会の様子は NHK 教育テレビで放送された。小学生の部は 6 年生の大西竜平君（東京・狛江市立狛江第三小）、中学生の部は、2 年生の坂倉健太君（広島・広島学院中）が優勝した。

(2) 第 8 回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学校での部活動や正課授業の取り組みの一助として大会の充実を図り、地方大会は小学校 271 校、1,090 人、中学校 207 校、897 人が参加。全国大会は 7 月 31 日～8 月 1 日の 2 日間、小中学生それぞれ 1 チーム 3 名編成の学校単位のチームの団体戦で開催し、小学校、中学校それぞれ 64 校、192 名が参加。埼玉・川口市立飯塚小学校、東京・駒場東邦中学校がそれぞれ優勝した。本大会は財団法人 JKA の青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催している。

(3) 第 35 回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

地方予選では 993 校、4,387 人（男子：3,526 人・女子 861 人）が参加。各都道府県大会を勝ち抜いた代表選手による全国大会は 7 月 25 日～27 日の 3 日間で、団体戦個人戦を行い、男子団体（代表 48 校）は、東京・開成高校、女子団体（代表 42 校）は、東京・東京学芸大学附属高校が優勝。男子個人（代表 98 人）は、癸生川聡君（栃木・栃木高 1 年）、女子個人（代表 48 人）は、谷結衣子さん（神奈川・湘南白百合学園高 2 年）が優勝した。本年度も地方大会において複数会場開催を呼びかけ、さらに参加校、参加人数増を目指した。昭和 54 年第 3 回大会より財団法人 JKA の青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催している。

(4) ぐらしき吉備真備杯こども棋聖戦

平成 23 年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした新大会。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部 42 名、小学生高学年の部 46 名の計 88 名がこども棋聖の称号をかけて競った。低学年の部は川口飛翔君（埼玉・川口市立本町小 3 年）、高学年の部は林隆羽君（埼玉・さいたま市立谷田小 5 年）が優勝した。

(5) 第 14 回任天堂こども大会

中学生以下のこどもを対象に5月4日、日本棋院で開催。マリオ、ピーチ等のキャラクターの名称を使つてのクラス分け、7路盤、9路盤、13路盤、19路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、今年度も1,215人が参加した。

(6) その他の大会

- ・ジュニア囲碁大会
- ・丸の内キッズフェスタ
- ・ジュニア囲碁パーク

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

(1) 宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国7ブロック、8会場で9の地方大会を開催し、11月26日に日本棋院会館にて全国大会を開いてチャンピオンを決定した。

(2) 第54回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手128名にて、3月3日～4日に全国大会（会場：日本棋院会館）を行い、新井満湧さん（関東地区代表）が優勝した。

(3) 第49回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。

1チーム5名の団体戦。11月16日、17日の2日間、沖縄県那覇市で行い、全国から500名の選手が参加した。6クラス中最上位のAクラス紅組は、東京の「紅友会」（山崎史子主将）が優勝した。

(4) 第11回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成の団体戦。東京と大阪の2会場で開催され、2会場の優勝チームによる決勝戦を11月27日に日本棋院会館で行い、優勝の仲翔道場花巻支部チームに内閣総理大臣杯が授与された。

(5) 大和証券杯ネット囲碁アマチュア選手権

インターネット上で、15クラスに分かれてのクラス別トーナメントを開催した。参加者数は、1,950人。

(6) 都道府県民まつりの開催

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加し、発展する「世界アマ大会」の唯一の国内予選。2,203人が参加した。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的にした支部単位の団体戦。1,459人が参加した。

(7) 全国規模イベントへの参加

「ねんりんピック健康福祉祭」の囲碁交流大会は、10月16日～17日に熊本県人吉

市で開催された。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士派遣を行った。

(8) その他大会等

1月5日を「囲碁の日」とし、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催する。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催して囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような場所を提供する。

6-3 国際囲碁選手権の開催協力及び海外囲碁大会等への協力

(1) 第33回世界アマチュア囲碁選手権戦（島根県大会の開催）

囲碁による相互理解と文化交流を基本理念に、各国の選抜戦を勝ち抜いた世界中のアマチュア囲碁愛好家が、国を代表して「世界一」を目指し、4日間にわたる熱戦を繰り広げる大会。島根県、松江市などの協力により、57カ国・地域の代表選手が出場し開催された。

(2) その他アマチュア国際大会への参加、国際交流の支援及び後援

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う専門棋士を対象にその栄誉をたたえ2012年3月27日に合同表彰式を実施した。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。専門棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。

第41回大倉喜七郎賞／日下 久生(アルプス囲碁村推進協議会会長)

山本 正和(元参議院議員 参議院協会副会長)

大下 龍介(広島県本部前本部長)

楠 光子(日本棋院棋士七段)

北村 正任(毎日新聞社相談役)

石井 邦生(日本棋院九段)

(2) 秀哉賞

21世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される専門棋士に贈呈される。

第49回秀哉賞／山下 敬吾名人・本因坊

(3) 棋道賞

第45回棋道賞／ 最優秀棋士賞 山下 敬吾名人・本因坊

優秀棋士賞 井山 裕太天元・十段、 羽根 直樹碁聖

謝 依旻女流本因坊・女流名人・女流棋聖

新人賞 内田 修平広島アルミ杯者

女流賞 謝 依旻女流本因坊・女流名人・女流棋聖

最多勝利賞 井山 裕太天元・十段

勝率第一位賞 金 秀俊八段

連勝賞 金沢 真三段

最多対局賞 井山 裕太天元・十段

特別賞 謝 依旻女流本因坊・女流名人・女流棋聖

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに開始し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）する。
平成 23 年度／岩本薫九段

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信した。

(1) 雑誌、新聞の発行

①月刊「碁ワールド」

中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ内容を掲載した。

②月刊「囲碁未来」

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座等、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用した。

③「週刊碁」

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を意識した多彩な構成を特徴とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信。

④「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成 22 年一年間の囲碁情報をまとめた。

(2) 電子媒体による情報提供

①「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に様々な機能を展開し、棋戦情報等積極的に提供した。

24 年度は、iPhone、iPad 向けのアプリのリリースを予定している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・棋士とのふれあいイベント
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

② 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、40 年以上に亘る、約 4 万局の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報を提供を行った。

③ 碁バイルセンター

「碁バイルセンター」では、携帯電話で手軽に囲碁情報や、棋譜鑑賞、さらには対局まで楽しめ、入門コンテンツや囲碁問題を提供し、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツを提供した。

④ 情報端末向けサービス

平成 22 年 1 月より、携帯電話（ドコモ、au、ソフトバンク）向けにタイトル戦

の生中継サービスを開始した。観戦は無料で、囲碁ファンに手軽にタイトル戦を楽しんでいただけるように、各棋戦でも実施した。

⑤ 電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来を電子書籍アプリ「i 碁 BOOKS」で配信。

9 月 単行本書籍の電子書籍販売開始

12 月 日本棋院無料碁盤アプリ「囲碁フリー」をリリース

12 月 iPhone アプリ「詰碁マスター」が配信スタート

(囲碁の入門者から高段者まで誰もが楽しめる詰碁アプリ)

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜の整理、展示を実施した。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画に従い、積極的に活動を行った。

10-1 八重洲囲碁センター

東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、全国の囲碁ファンへ総合的なサービスセンターとしての役割を担っており、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校、特にこども教室の充実に努め、ファンサービスを心掛けた。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統轄し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組んだ。

(1) 各種大会の開催及び後援(主なイベントは以下の通り)

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル(延べ700名)
- ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり(173名)
- ・比叡山囲碁ゼミナール(52名)
- ・阪急電鉄 納涼囲碁まつり(約1600名)

(2) 会館事業の充実

ホールでは、一般対局のほか棋士による指導碁、級位者の日や有段者の集い、囲碁学校、入門教室を開催。貸室では、法人各種団体の利用を促し、より快適にご利用頂けるよう努めた。

(3) 青少年への囲碁普及の充実

関西財界の応援を頂き「関西学校普及事業(小学校こども囲碁入門教室)」を4月より関西棋院と共催で地元の囲碁協会と協力して市の行政や教育委員会の理解を頂き、関西の公立小学校へ総合学習の時間やクラブ活動の時間を利用し行った。

また、子供大会を一層充実させるとともに小中学校等の囲碁教室への協力や普及指導者への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大させるように努めた。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組んだ。

(1) 各種大会の主催及び後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・囲碁ゼミナール
- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ・ジャンボ団体戦
- ・中部こども級位者大会
- ・会員と棋士囲碁のつどい
- ・愛知県・江蘇省青少年囲碁交流

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第52期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

①指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、指導碁の充実を図る。

②院内イベントの充実を図る。

- ・「10 アンダーの日」
- ・「級位者の日」、「有段者の日」
- ・「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」

③入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全11コースから13コースに増設し、囲碁ファンの底辺拡大に努める。

Ⅱ収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう3級から八段までの免状発行を実施した。免状には、審査役である専門棋士の署名がなされる。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員を申請する権利を付与する。指導員になるための、指導員研修会の開催と書類審査を行った。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4～6F部分を他法人に賃貸した。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売センターの

設置や、インターネットを利用したのオンラインショップでの物品販売も実施した。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活詰碁、事典、囲碁の歴史書まで、さまざまな囲碁に関する単行本を発行。現在 150 点の書籍を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売した。

Ⅲ 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、手続きや寄付者の公益法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努めた。

2 コンプライアンス

公益法人として、新定款による執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制制度整備委員会を発足させた。コンプライアンス行動規範の徹底、経理規程の見直し、入出金業務の取り扱いマニュアルの作成等実施した。平成 24 年度も引き続き継続して行う。